

ほとけの混和会だより

令和元年六月

東光院

仏の混和会

第140号



極楽浄土

**内の主人は御浄土に
行けましたか？
極楽浄土はどこに
あるのですか？**

これは、ある人の私に対する問い掛けでした。実は釈尊もお弟子さんから「死後、私達はどこに行くのか、死後の世界は存在するのか、極楽浄土は有るのか、無いのか」と、問われた時がありました。しかし、お釈迦様は何も答えて上げませんでした。よって私も一瞬どのようか答えてあげたら良いのか戸惑ってしまったのでした。お釈迦様が死後の世界を

お弟子さんに答えて上げなかつたのは「御仏の弟子として勤めるものは死後の世界を心配してはいけません。あるがままに永遠とも言われる時間の営みに全てお任せしなさい。」それが「南無阿弥陀仏」と言う事なんじゃよ」と無言で答えられたように思われるのです。

そして死後の世界に旅だたれた人は、先ず初、七日までは不動明王二、七日まではお釈迦様三、七日までは文殊菩薩四、七日までは普賢菩薩五、七日までは地藏菩薩六、七日までは弥勒菩薩七、七日までは薬師如来と言うように七日毎に各仏様がそれぞれの役割を用いて七日×七日いわゆる四十九日の間迷いの境地からの解脱の道を示し「仏心」いわゆる慈愛心の会得へと導かれます。本来、後に残った私達も故人と共に身を慎みながら各仏様の導きを学び精進しなれば成らないのですが、古来より伝わる方便(たとえ話)によって仏道精進の意義が見失われてしまったように

思われます。

そして仏心を会得された故人の思いは、

「おかげを持ちまして、私は前世に対する一切の迷いを克服することが出来ましたどうぞ私の事は心配しないで下さい。それよりも後に残った皆さんを何時までもお守りしてるからね。みんな幸せに成るんだよ。しっかりと生きて行くんだよ。」

と已に對する未練とか執着を捨てて後に残った皆さんの幸を願ってお守りして下さいます。

ところが故人の願いとは裏腹に後に残った私達が何時までも死を嘆き悲しみ臥せていたり、様々な事に迷い苦しんでいたら故人と成られた人はどのようなに思われるでしょうか、「私の事でみんなを悲しませ、苦しませてしまった」と己をせめ、嘆き苦しみ迷われてしまいます。ですから故人と成られた人に安心して頂けるよう、私達はこの世に於いてみんな幸せに成れるよう努めて行かなければ成らないのです。極楽浄土とは故人と私達が共に安心に満たされる世界です。よって極楽浄土は西方の遙かかなたに於くのでは無

く、身近な私達の心中に築きたいもので御座います。



蓮のうてな

慈愛心を抱いた仏様は、蓮のうてなにお座りに成られています。

蓮は清らかな清流では育ちません。よどんだ汚泥の中に生きて、汚泥に染まること無く美しく清らかな華を咲かせます。仏様にも辛く悲しい過去が有ります。その経験に導かれて蓮台にお座りに成っておられるのです。

私達の暮らす世界は汚泥のよう辛く悲しい出来事ばかりですが、汚泥の中で生きた経験によって心の奥底に眠っている美しく清らかな慈愛心に目覚める事が出来ます。共に慈愛心を育み安心に満たされる極楽浄土を築いて参りたいと存じます。合掌 亮観拜



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は明王部の金剛夜叉明王を紹介します。
● 明王部 金剛夜叉明王

金剛夜叉明王、サンスクリット語で「ヴァジュラ・ヤクシャ」と言います。「ヴァジュラ」とは仏教の手法等を用いられる法具、金剛杵を意味し、「ヤクシャ」とは悪鬼である「夜叉」であつた事を意味します。

元々は人を襲つては喰らう悪鬼の一人で、今のように仏様として拜まれるのは真逆である、人々の恐怖の対象でした。

しかし、大日如来に出会い、その教えを聞いた夜叉は仏教の教えに帰依することを大日如来に誓い、夜叉として暴れていたその強さを生かして仏教の守護神、明王となりました。以後、無作為に人々を襲うことを止め、罪人や悪人のみを喰らうようになったと言います。

そういった面から、心の乱れ、煩悩を喰らい尽くしてくれる仏「金剛瞰食」とも呼ばれます。

また、「敵や悪を喰らいつくして善を護る神」として多くの武将から信仰を集めており、戦が多かった時代では金剛夜叉明王を祀り、戦勝祈願が行われていたようです。

この金剛夜叉明王の身体的特徴は、三つある顔に六本も有る腕、そして左右の足の下に一輪ずつ、蓮華の花が有りその上に立つ事です。また、三つの顔の内、正面にある顔には両目の上に一つずつと額に一つ、計五つの目玉があり、この目で相手の嘘を見抜くそうです。

六本有る腕には名前にも成つて、金剛杵、金剛杵に鈴の付いた金剛鈴、金剛杵の突起部分が伸び刀となった法剣、更に弓と矢、五色の紐から出来た羅索と呼ばれる繩を手にしています。

各々の道具にも意味があり、繩を使い、悪や煩惱を縛り上げ、それらを剣で裁ち切り、杵ですり潰し、綺麗な心になったところで鈴を鳴らし、仏様を呼び、弓矢で仏様のいる正しい方向へ導くといわれています。

余談：

先日、東京国立博物館・特別展「東寺展」にて写真の実物を拝見いたしました。全長2尺近くあるその姿は、悪を寄せ付けまいとする威圧感が伝わってくるほど凄まじかったです。

亮澄拝



京都府 東寺 国宝金剛夜叉明王立像

祝 令和改元

平成も終わり、令和という新しい時代が始まるうとしております。調布深大寺では大型連休の賑わいの元、本堂や書院を特別公開し、改元を記念した展示を行いました。



写真はこの時期に花を咲かせるナンジャモンジャ(正式名ヒトツバタゴ)の木です。真っ白な花が木全体を覆うことからスノーツリーと呼ばれる珍らしい樹木で、これを目的に毎年多くの方が深大寺に訪れます。

花まつりを行いました

さて、先月四月七日にお釈迦様の誕生会、花まつりが行われました。正式には灌仏会といい、はる



かインドでお釈迦様がお生まれになった際、天から甘露が降り注ぎそのお身体を洗い清められたという伝承か



も、東光院では準備や紙芝居、お花渡しや体験教室、そばや食品の接待、ご家族での参拝など、それぞれ多くの方の善意のご協力の元に成り立っております。こうして、皆様と共に一つの行事を作り上げ、お釈迦様の誕生をお祝いできること、本当にありがたいことだと実感しております。ありがとうございました。



春彼岸とお茶のご接待

今年も五十嵐先生、社中の皆様、春彼岸のお参りにいらした方にお茶のご接待を行って下さいました。ありがとうございました。亮敬拝

